

5 教室経営

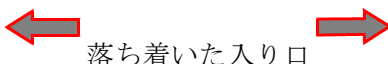
(1) 教室設営

児童生徒にとって、家庭環境や社会環境と同じように教室環境はとても大切なもので、1日の大半を学校で過ごすため、学校に登校する喜びを感じさせるような教室設営が必要である。喜んで登校することが、学習意欲にもつながり、教育活動も活発なものになる。そのため、学級担任は喜んで登校したくなるような教室環境の設定に心がけることが大切である。また、1年中、同じ環境のままでは教室設営の効果は得られず、掲示物にも変化が必要である。常に、教室のどこかが、子どもたちへメッセージを発信し、呼びかけている、そんな環境が子どもたちの変容を呼ぶものである。

【教室設営で配慮すべきこと】

① 教室の入り口

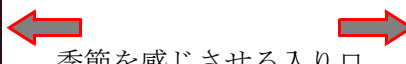
教室の入り口は、学校に来て学習を始めようとする始まりの場であり、楽しく入室できるよう配慮すべきである。子どもの実態に応じた装飾が大切である。



落ち着いた入り口



明るいイメージ
カラフルな色使い



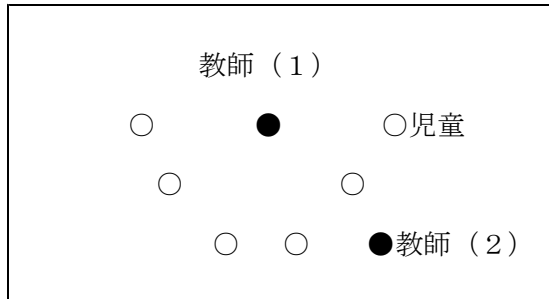
季節を感じさせる入り口

秋の装飾



② 児童生徒の机の配置

児童生徒数、障害種によっても配置はかなり違って来るが、授業に集中できるためにも教師と児童生徒の対面ができるような机の配置が良いと思われる。



チームティーチングを行う場合、教師（１）は、全員が見渡せるように位置する。教師（２）は一人一人の児童生徒に応じた指導・援助を行う必要があり、児童の間を巡回して指導することが大切である。

③ 職員の机の配置



職員の机は、教室のスイッチのあるコーナーが良い。また、緊急の場合、児童生徒の安全確保に対応できる入り口にも近い位置が好ましい。教室用パソコンは、児童生徒の使用しやすい位置に設置しておく。

④ 掲示板の活用



児童生徒が掲示するもの
児童生徒の実態に応じて楽しく掲示する。



廊下等の掲示板の活用
整理整頓し、分かりやすく掲示する。



⑤ 黒板（ホワイトボード）の利用



重度重複障害の児童生徒には、文字を大きく、また、天気、給食の献立など工夫を凝らし、絵や写真等を十分利用する。なお、ラミネートしておくことで長期利用が可能である。



⑥ クラス目標の掲示



教室前方、黒板の上に掲示すると常に目標を意識できる。



⑦ 1日の流れ

障害のある児童生徒は、1日の流れをつかむことが難しい。流れをつかめずにパニックを起こす例も多く見受けられる。そのため、朝の登校時、朝の会などで1日の流れを十分に知らせ理解させることは大切なことである。



前方黒板に1日の流れを掲示しておく

文字及び絵、写真等で掲示する



⑧ カレンダーの掲示

今後の日程や行事等を知らせるためにも、必ず大きな文字のカレンダーは、教室に掲示しておくことが大切である。

⑨ 係り活動・通信その他の掲示



係り活動表、学級通信、保健便り、月目標、係り目標、その他、児童生徒が学級活動を行う上で、必要な掲示物を児童生徒が見やすい位置に、整理して掲示しておく。

⑩ 児童生徒のロッカー等の配置

私物（着替え、おむつ等）の多い児童生徒も多く、取り出しやすい位置に、個人の名前を大きくして表示したり、マークで表すなどの工夫が必要である。

⑪ 教材の整理

日頃から教室内で使用する自作の教材については、使用しやすい位置に区分して収納するように心がける。児童生徒が使用する教材の整理整頓は、児童生徒にとって、「日常生活の指導」における指導の一環でもある。

⑫ 天井の活用



教室すべてが教材であり、さまざまなところを活用することは大切である。特に重度重複障害の児童生徒にとっては、フロアに寝ての学習もあり、天井のスペースを十分に活用するなどの手立ても必要である。

⑬ 朝の会、帰りの会の流れの作成



朝の会、帰りの会は、学校生活の一日の始まりと終わりに実施し、大変重要である。会の流れを児童生徒が十分に把握し、自ら流れを運営できるように教室内にその流れを掲示しておくが良い。



⑭ 教室周辺の整備

教室内だけでなく、教室前廊下やトイレ、洗面台等、児童生徒が日常生活を営む上で必要な場所に必要なさまざまな掲示をすることで、教育効果をあげることができる。

⑮ 隣接教室とのバランス

学校は一クラスで成り立っているわけではない。いくつかのクラスの集合体である。集団活動を行い、適切な対人関係を育むために、近隣クラスとの合同学習や交流場面は大切なものである。そのためにもクラス王国を作るのではなく、自分のクラスの個性を出しつつ、他クラスとの協力・協調が必要になってくる。

⑯ 児童生徒の個々の実態に応じた配慮

児童生徒の障害の状況によって学級経営もかなり違ってくる。

- 掲示物が多すぎると注意散漫になってしまう児童生徒
 - パニックや発作が多く、教室にあまり品物を置かないほうが良い児童生徒
 - 車椅子や立位台など個人が使用する品物の多い児童生徒など
- 児童生徒の障害の実態によってかなり配慮を要する。

⑰ 衛生管理

重度重複障害児童生徒にとっては、体調面で非常に配慮を要する。手洗い、うがい、排泄面での処理、消毒、殺菌等、感染対策などには学校全体で緊急マニュアルを作成しておく必要がある。

⑱ 危機管理



防災訓練（火災・地震・水害・不審者侵入など）の実施と危機管理マニュアルの作成は大切である。避難訓練を行う上で、障害のある児童生徒を避難誘導させる際、廊下等にさまざまなものが置かれていると避難の妨げとなる。特に車椅子使用の児童生徒にとっては、避難できない状況が予想される。また、地震などの時、掲示物の落下も予想されるため、廊下の掲示物にも配慮を要する。

（２） 掲示物

教室の掲示物については、児童生徒の障害種によってもかなり異なってくるものと考えられる。盲学校、聾学校、知的障害養護学校、肢体不自由養護学校、病弱養護学校等かな

りの違いは見られるが、ここでは基本的な教室設営について配慮事項等も加えながら紹介したい。

【教室の掲示板】

① 学年、生活経験年数に応じた掲示

学年、生活経験年数を尊重した掲示に心がけることが大切である。障害があっても生活経験年数は異なり、7歳と15歳では年齢差がかなり違っており、学校全体で配慮する取組が大切である。

② 年間を見通した計画

学級を運営していく中で、教室設営や掲示物においては、年間を見通した計画的な構想を教師は持つておかなければならない。

③ 季節を感じさせられる掲示

月掲示板：例



1月 正月



2月 雪降り(冬)



6月 雨降り(梅雨)



8月 海(夏)

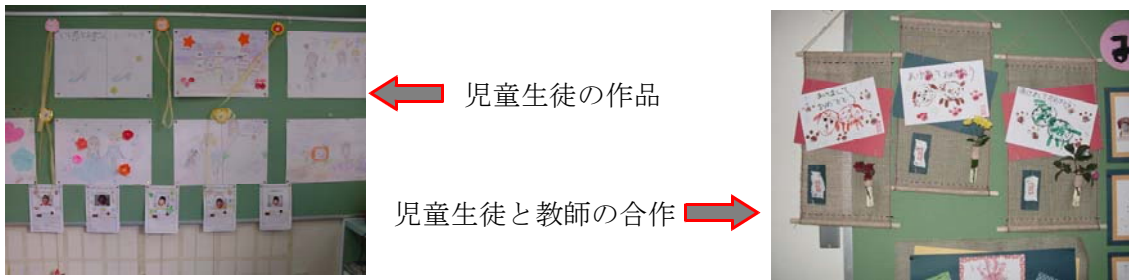


11月 落ち葉(秋)

④ 年間行事への配慮

学校行事は子どもたちが大変楽しみにしているものであり、また、教育的効果も高い活動である。その内容を教室内設営にも生かす心がけが大切である。

⑤ 職員の制作した掲示と児童生徒が制作した作品の区別



⑥ クラス目標の掲示

必ず必要である。（（1）教室設営⑥を参照）

⑦ 係り活動の明記

必ず必要である。（（1）教室設営⑨、（3）係り活動を参照）

⑧ 児童生徒の作品が中心

児童生徒の学習意欲を高めるため、できるだけ子どもの作品掲示を中心に行う。制作活動が困難な児童生徒であっても、教師の支援及び手立ての工夫によってすばらしい掲示物ができる。

⑨ 眼の不自由な児童生徒の配慮

色彩、文字を大きく、視覚以外の掲示に配慮する必要がある。

⑩ 耳の不自由な児童生徒の配慮

掲示物に丁寧な説明を加えるなどを配慮する必要がある。

⑪ 知的障害のある児童生徒の配慮

明るく活動的な掲示に配慮する必要がある。

⑫ 自閉症の児童生徒の配慮

注意散漫にならないよう落ち着いた環境設定に配慮する必要がある。


⑬ 肢体不自由のある児童生徒の配慮

車椅子の位置から見える高さでの掲示に配慮する必要がある。

⑭ 病弱児童生徒の配慮

ほこり等の少ない衛生面に十分配慮が必要である。

【掲示板以外の掲示】

- ① 玄関の掲示
- ② 廊下の掲示
- ③ 給食室の掲示
- ④ 洗面台の掲示（歯磨き・洗顔・手洗い）楽しい掲示 
- ⑤ トイレの掲示（落ち着いた環境）
- ⑥ プレイルームの掲示（他クラスとの共有）
- ⑦ 特別教室の掲示（担当責任者が配慮）



（3）係り活動

【係り活動の意義目的】

障害のある児童生徒の自主性を伸ばすため、学級運営上子どもが自主的に責任を持って取り組む「係り活動」を設定することは大切である。「係り活動」は、自ら取り組もうとする意欲、自主性、責任感、協調性などを身につけさせるために有効な手段でもある。楽しい学級運営を営むためには、円滑な「係り活動」が遂行できるよう、教師の創意工夫が重要である。

【係り活動の種類】

日直、黒板消し、花壇の水やり、花瓶、金魚のえさ、配布物、窓の開閉、掲示、保健関係、気温、天気、給食、その他

【係り活動の表示】

注意点： 何の係りなのか、誰が行うのかを大きく明確にしておく。

〇〇学級 係り活動表	
係り名	なまえ
黒板係り	〇〇 〇〇
花壇の水やり係り	〇〇 〇〇
窓閉め係り	〇〇 〇〇
給食係り	〇〇 〇〇
☆	〇〇 〇〇
☆	〇〇 〇〇
☆	〇〇 〇〇



評価も必要である。シール形式で別に表を作成しておく、子どもたちの責任感や意欲の向上を狙うことができる。

また、係り活動は自主性を尊重する活動であり、賞賛等が中心となるため、処罰的な内容は行ってはならない。

(田中正利)